

● 静岡新聞 びぶれ 2004年10月14日号
掲載記事 詳細

生えてきたら要注意 親知らずはトラブルメーカー？

痛みや腫れなど何かとトラブルが多く、悪役イメージのある親知らず。親知らずが引き起こす症状や治療法について、やまぐち歯科医院院長にお話を伺いました。

● 生えるのは20歳ごろ

人間の永久歯は15歳ぐらいまでには生えそろう、その後、親知らずは20歳ごろに生えてきます。もともとは人類が原始的な生活をしている時に使用していた歯なので、あごが退化した現代では生えるスペースがなく、あごの骨の中に埋まったままになり、生えてこないことも。しかし、生えてきた場合は周囲に影響を及ぼすことがあります。

● 親知らずが原因のトラブル

親知らずが生えてきたために起こるトラブルには、次のようなケースがあります。

1. 歯肉が腫れる

親知らずが半分歯肉の中に埋まっていたり、傾いていたりと、まっすぐに生えてこない場合、周りの歯肉との隙間をしっかりと手入れするのは難しく、食べ残しが溜まって炎症を起こしやすくなります。

2. 強くかむと痛い

反対側の歯肉や頬の粘膜に親知らずが突き刺さる場合があります。

3. かみ合わせがおかしい

上あごの親知らずを抜歯した後で下あごの親知らずが生えてきたときに起こりやすい症状。親知らずが伸び、ずれた状態をかみ合わせるため、あごがガクガクしたり、ほかの歯が異常にすり減ったりします。

4. 虫歯になる

一番奥までの手入れが難しいため虫歯になることがあります。

5. 歯並びが悪くなる

親知らずが生えてくるときに、後ろから手前の歯を押していると、それまでは問題なかった歯並びが悪くなる場合があります。

● 気になる症状は放置しない

親知らずの治療は抜歯が一般的。機械が入りにくいので完全な治療ができない、歯磨きがしにくい、隣の歯が虫歯や歯周病になりやすいなどがその理由です。少しでも気になる症状があれば、まずは歯科医で受診を。あごの骨の深いところに埋まっていたり、複雑な曲がり方をしていたりするなど、場合によっては口腔外科の診断を仰ぐこともあります。歯の周りの炎症は放置しておくとも症状が悪化し、時には入院が必要な事態にもなりかねません。かかりつけの歯科医で定期的に口腔内をチェックすることが重要です。

抜歯手術の仕方(例)



①術前診査

親知らずのとがった部分が頬粘膜を傷つけて炎症を起こしている。



②無痛処置

局所麻酔を施す。現在では最小限の痛みで処置することが可能。



③抜歯施術

抜いたのに気付かないほど早く終わることもある。状態によっては歯肉の切開や歯を半分に分けて切る場合もあるが口腔内は麻痺しているため痛みはほとんどない。



④経過観察

症例によっては治癒促進のためにレーザーを照射する。2ヶ月程度で傷はふさがる。